

農業科

1 指導の方針

- (1) 作業学習全体を通し、職業生活や社会生活に必要な知識・技能・態度・習慣の育成に努め、職場で過ごすためのコミュニケーション力や意欲・主体性、責任感を養う。
- (2) 生徒の安全指導を徹底する。
- (3) 生徒一人一人の実態に即した適切な作業学習を展開する。
- (4) 作業学習に必要な施設設備の整備・掲示物の工夫を図り、よりよい環境づくりに努める。

2 製品及び栽培作物の紹介

		
ハーブ石けん	わら縄	押し花
		
プランター・花壇	グロキシニア・球根ベゴニア	ポインセチア・シクラメン
		
トマト・ジャガイモ	キャベツ・ネギ・カボチャ	ナス・ピーマン・小豆

3 働く力6観点に基づく指導

1 たくましい心とからだ：体力・気持ち 	2 頼もしい意欲・主体性：自分から働く 	3 相手を思いやるコミュニケーション：動機（心・気持ち） 
1 - (1)〔健康・衛生・生活習慣〕 働くための土台は心と体です。身だしなみを整え、規則正しい生活の指導を徹底し、心が健康を維持し作業学習に臨むことを養います。 1 - (3)〔集中力・体力〕 暑い夏はハウス内、圃場での作業学習が中後作の自給作業で最も大変な作業となります。過酷な環境の中で作業を続けるためには、適切な水分補給・休憩・適宜の判断、目的意識を持つことが必要になります。特に夏の農作業には必要な集中力と体力を養います。	2 - (2)〔働くことの意義・意欲〕 自分たちが栽培・管理した鉢花を町内の公設施設に「飾り」をすること、自分たちが共口していることを理解します。 2 - (3)〔謙虚さ向上心〕 販売会では、地域の多くの方に喜んでいただいています。しつかりとした製品を作らなければお客様は買ってくれません。地域の方が更に喜んでもらうために、お客様の評価を謙虚に受け入れ努力を続けることが必要です。	3 - (2)〔責任感〕 3年生では、学校周辺の花壇の設計・定植・看板作成・管理まで一連の作業をおこないます。看板には生徒名を掲載し、秋まで生徒が責任を持ち管理します。 3 - (3)〔協力意識〕 農作業は天候に左右され、作付け時期や鉢替えのタイミングが遅くなると生産物が取れなくなる可能性があります。仲間と協力し、状況を把握し、行動する習慣を養います。
4 気持ちの良いコミュニケーション：技術（スキル） 	5 状況を見て、自分の取るべき言動を判断する。 	6 周りの大人に相談し助言を受け入れる：困ったときこそ自分から動く 
4 - (1)〔挨拶・返事〕 人間関係作りは、気持ちの良い挨拶と返事をするところから始まります。作業学習では挨拶・返事の指導を大切にしています。互いにコミュニケーションを図りながら、心地よい作業学習をおこなうことができるよう取り組みます。 4 - (2)〔報告・質問・相談〕 自分の作業が終わったら報告をする。わからないことがあったら質問をする。困ったときがあったら相談をする。仕事をしないことで責任感を持つことやミスを起こさないこと、作業効率をあげるためのスキルを習得できるように指導をしています。	5 - (1) 状況把握 製縄作業や用土配合作業は機械を使います。作業環境を整えて臨まなければ怪我をする可能性があります。周囲の人の動きを見ながらお互いに声掛けをすることにより、安全に作業を進めることができます。状況を把握し、適切な判断・行動ができるように指導をしています。 5 - (3) 言動 中学校の交流事業や学校見学では、作業内容について説明を求められる場面があります。説明には作業内容を理解していることや普段から人前で話す習慣を身につけることが必要になります。相手や状況に応じた言葉遣い、目的を理解しながら作業をおこなうことの大切さを日常的に指導をしています。	販売会では、お客様の対応・品切れの対応・生産物の片付け・整理作業など突発的に起こる場面や対応・作業が多々あります。その状況に応じ、「周りの大人に相談する」「自ら判断して動く」といった臨機応変な行動が必要になります。働いた時に限らず、社会人では困ったときにどのような行動することが日常的に求められます。日頃の作業学習では、自分から考えて動くことを学年進歩とともに意識して指導します。

4 キャリア発達の促進

フラワースマイルプロジェクト 【目的】 町内の公共施設に生徒が自ら栽培・管理した鉢花を届け、装飾することによって、地域貢献心を養うとともに作業学習の意欲向上につなげる。 【内容】 年3回、夏の花（グロキシニア・球根ベゴニア）・秋の花（シクラメン）・冬の花（トレニア）を公共施設9カ所に、生徒が作成した四季のしおりとともに直接届けます。 【成果】 自ら栽培した植物に誇りと責任を持つようになります。周囲の人が喜ぶためにどうすれば良いか考えるようになります。	 
田植え・稲刈り学習 【目的】 雨竜町は日本有数の米どころであります。地域の基幹産業を体験・学習することで、地域理解と食育教育につなげる目的でおこないます。 【内容】 田植え（5月）・稲刈り（9月）は町内の水稻農家を営んでいる野村耕次郎氏の支援を得ながら取り組みます。 【成果】 収穫したお米は給食に提供され食育教育につなげます。また、稲わらは、製縄作業の原料として用いられ、立派なわら縄を作ります。稲は、食料として利用するだけでなく、草履・しめ縄など生活用品にも活用することを学びます。この体験学習により、稲の製品だけではなく、日常生活において、多くのものに興味を持って生活することができるようになります。	   